保護者各位

# 子どもと健康

令和５年７月（第２８６号）
子どもの健康を考える会

日に日に日差しが強くなり、楽しい夏がやってきました。暑さで体力を消耗しやすい時季です。健康面、衛生面、安全面に十分配慮しながら、元気にこの夏を乗りきりたいと思います。今回は、**『夏の感染症』**について、長森こどもクリニック　折居　建治先生よりご指導をいただきました。

✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿

## 『夏の感染症』

### ★★★　プール熱　★★★

正式には、咽頭結膜炎といいます。アデノウイルスが原因で 38℃～39℃の発熱、喉の痛み、目の充血、目やにがよく見られます。そのほかに頭が痛くなったり、気持ち悪くなったり、おなかが痛くなったりして、だるくなります。熱は早くて３日くらい続き、長い人だと７日間くらい続く事もあります。咳やくしゃみからや、水を介したり、タオルを共有したりすることでうつります。

**【治療】**

抗ウイルス薬はありません。熱や痛みには解熱鎮痛薬、咳には咳止め、目の痛みには点眼など症状にたいする治療になります。発熱が長びくことが多いので脱水にならないように、こまめな水分補給が必要です。

こんなときはもう一度受診しましょう
◆発熱がながびいて、ぐったりしているとき
◆咳がひどくなり、咳で嘔吐したり、夜に咳で起きてしまうとき
◆水分がとれず、おしっこが少なくなってきたとき

**【登園の目安】**

発熱、のどの痛み、目の充血など主な症状が消えて、２日間おいてから　登園しましょう。

### ★★★　とびひ　★★★

正式には伝染性膿痂疹といいます。ブドウ球菌や溶血性連鎖球菌などの感染によっておこります。あせも、虫ささされ、疹などをひっかいたりしてできた傷に細菌が感染することでおこります。鼻や口にはいろいろな細菌がいますので、鼻や口をよく触るお子さんでは、鼻を触った手についた細菌が傷について感染することが多くみられます。水ぶくれができて、皮がむけたり、かさぶたが厚くついたりします。みずぶくれの中には細菌の毒素がでていますので　そのみずぶくれの液が　周りにつくと広がっていきます。

**【治療】**

せっけんを泡立てて　そっと洗い、シャワーで洗い流しましょう。洗ってから、抗菌薬の入った軟膏を塗ります。軽い場合は、これで治りますが、ひどい場合は、抗菌薬の内服をおこないます。かゆみが強い場合は、かゆみ止めを内服することもあります。

こんなときはもう一度受診しましょう。
◆軟膏をぬってもよくならないとき
◆かゆくて眠れなかったり、熱がでてくるとき
◆みずぶくれが、どんどん広がってしまうとき

【登園の目安】
熱がなくなり、みずぶくれがガーゼなどで覆ってあれば休む必要はありません。範囲が広くて覆えない場合は、みずぶくれが乾燥して皮膚の赤みがなくなったら登園してもよいでしょう。

長森こどもクリニック　　折居　建治

✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿

岐阜市役所　子ども保育課　　ＴＥＬ：２１４－７８２５（ダイヤルイン）
ＦＡＸ：２６２－１１２１
Ｅメール：hoiku@city.gifu.gifu.jp